YCU 春季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	**A.T**	**学部・学科**	**国際教養学部国際教養学科**
学 年	**2**	**派遣国**	**アイルランド**
派遣大学	**ダブリンシティユニバーシティ**		
プログラム名	**春季短期語学研修**		
期 間	**2026 年 2 月 9 日～2026 年 3 月 6 日**		

（1）授業や課題、演習はどのような内容であったか。（800 字程度）
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

授業は月曜日から金曜日まで毎日行われ、時間は休憩を含めて 9 時から 13 時までの約 4 時間であった。課題は基本的に翌日の授業内容に関連するものが出された。

授業内容は毎日異なり、リーディングでは自分の興味のあるトピックの英文記事を読み、要約を書くとともに、新出単語を見つけて意味を調べることで理解を深めた。ライティングでは、授業で学んだメールの形式を用いてレストランへの架空のクレーム文を書いたり、創作的な物語を書いたりと、実用的かつ発展的な課題に取り組んだ。スピーキングおよびリスニングでは、ホストファミリーにインタビューを行う課題があり、実際のコミュニケーションを通じて英語を使う機会が設けられていた。

授業形式も多様であり、座学だけでなく、グループワークやペアワークが積極的に取り入れられていた。特にグループワークでは、プレゼンテーションの機会もあったが、それ以上にゲーム形式の活動が多く、楽しみながら英語を学ぶことができた。例えば、サイコロを振って進んだマスに書かれているトピックについて英語で話す活動や、グループ対抗で正しい英文を作成し得点を競う活動などがあった。また、「ワードウルフ」のようなゲームも行われ、自然な会話力や瞬発的な語彙力が求められた。

特に印象に残っているのは、「A」から「Z」までのアルファベットを題材とし、その文字から始まる単語を考えるゲームである。クラスにはフランス人の学生もおり、彼女が挙げる単語は自分にとって馴染みのないものが多く、語彙の幅の違いを実感するとともに、新たな単語に触れる良い機会となった。このように、多国籍のクラス環境の中で互いに刺激を受けながら学ぶことができた点も、本授業の大きな特徴であった。

（２）授業を受けてどのような知識等が得られたか。（500 字程度）

本授業を通して、単に単語の意味を覚えるだけでなく、その単語の使い方やニュアンス、類義語との違いについて理解を深めることができた。例えば、一つの単語に対して複数の言い換え表現を学ぶことで、より自然で状況に応じた英語表現ができるようになった。また、ライティングの授業では、フォーマルなメールの構成や適切な表現方法を学び、実生活でも応用可能なスキルを身につけることができた。

さらに、スピーキングやリスニングの活動を通して、相手の話を聞き取る力や、自分の考えを英語で伝える力も向上したと感じる。特にホストファミリーへのインタビュー課題では、事前に質問を考え、実際に会話を行うことで、教科書だけでは得られない実践的なコミュニケーション能力を養うことができた。このように、本授業では語彙力や文法力だけでなく、総合的な英語運用能力を高めることができた。

（３）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。（400 字程度）

授業を受ける前は、自分の英語力に対して自信がなく、特にスピーキングに対して苦手意識を持っていた。しかし、授業では間違いを恐れずに発言することが重視されており、ゲーム形式の活動などを通して、自然と英語を話す機会が増えた。その結果、次第に「完璧でなくても伝えることが大切である」という意識に変化していった。

また、多国籍のクラスメイトと関わる中で、自分の英語が相手に通じた経験は大きな自信につながった。授業後は、英語を「勉強するもの」から「コミュニケーションの手段」として捉えられるようになり、英語を使うことへの抵抗感が減少したと実感している。

（４）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。（300 字程度）

今後は、本授業で得た知識や経験を生かし、インプットだけでなくアウトプットの機会を積極的に増やしていきたい。具体的には、英語で日記を書くことや、学んだ表現を実際の会話で使うことを意識していく。また、単語学習においても意味だけでなく、例文や類義語とともに覚えることで、より実践的な英語力を身につけたいと考えている。

さらに、今回のように実際に英語を使う環境に身を置くことの重要性を実感したため、今後も留学や国際交流の機会に積極的に参加し、継続的に英語力を向

上させていきたいと考えている。そのために、日常的に英語に触れる習慣を維持していくことを重視したい。

YCU 春季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	**R.M**	**学部・学科**	**国際教養学部・国際教養学科**
学 年	**2 年**	**派遣国**	**アイルランド**
派遣大学	**ダブリンシティ大学**		
プログラム名	**春季短期語学研修**		
期 間	**2026 年 2 月 7 日～ 2026 年 3 月 10 日**		

（1）授業や課題、演習はどのような内容であったか。（800 字程度）
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

授業は、1 日 110 分の授業が 2 コマ行われ、約 15 名の少人数クラスであった。クラス内では 4 人程度のグループに分かれて授業が進み、グループ内での会話が非常に活発で、一人一人が発言する機会が多く確保されていたと感じる。その日に学習した文法の定着を目的とした課題が毎日出され、教科書の問題や配布プリントに取り組むものが中心だった。週末には課題が出されないことも多かったが、時々ライティングの課題が出された。また、毎週金曜日には語彙や文法の理解度を確認するテストが実施され、毎日の授業のメモなどが、試験勉強に有効であった。また、テストの後には 1 週間のまとめとして、「Kahoot!」を用いた文法クイズも行われ、クラス全体で競い合いながら楽しく学習できた点が印象的であった。さらに、先生は常に、間違えることを恐れず、分からないことはすぐに質問してほしいと繰り返し伝えており、そのような環境は、安心して発言できる雰囲気を生み出していたと感じる。

授業の流れとしては、まず、最初の 15 分間で前日の出来事についてグループ内で共有し、その後、先生と会話形式でクラス全体に共有する。内容としては、アイルランドの観光や昨日食べたご飯、さらには鑑賞した映画や恋愛の話まで、幅広いトピックで話していたため、興味深く取り組むことができた。特に、毎週月曜日は、皆、週末の思い出を共有していたため、非常に印象に残っている。そして、この活動に対して、先生が語彙や文法の観点からフィードバックを行い、より自然で伝わりやすい表現へと修正してくれた。また、発音やイントネーションについての指導もあったため、よりネイティブに近づくポイントも得ることができた。さらに、先生に対する質問の時間も毎日設けられていたため、現地での生活を通して生じた疑問や気づきを英語で表現する機会も多くあった。

授業ではリスニング、リーディング、スピーキングに加え、ライティングも含めた 4 技能をバランスよく学習する構成となっており、一定の学習サイクルが確立されていたため、取り組みやすかった。さらに、教科書だけでなく現地の生活や文化に根差した語彙や表現を学ぶ機会が多く、実践的な英語力の向上につながったと感じる。

（２）授業を受けてどのような知識等が得られたか。（500 字程度）

授業を通して、教科書では学ぶことのできない、より自然で実践的な英語表現を身につけることができた。特に、日常会話をもとに新たな単語やイディオムを学ぶ機会が多く、実際のコミュニケーションの中で使われる英語を理解することができた点が大きな学びであった。例えば、「Pancake Tuesday」というキリスト教の復活祭に関連した行事について学んだ際には、その由来や当日の過ごし方に加え、「Ash Wednesday」といった関連する文化や慣習についても教わることができ、言語だけでなく背景にある文化への理解を深めることができた。

また、感謝の表現について学んだ際には、「Thank you」以外の言い回しとして「Thanks a million」というフレーズを知ることができた。当初はその表現がどの程度の感謝を示すのか分からなかったが、実際にレストランで現地の人が店員に対して使用している場面を耳にしたことで、日常的に使われる自然な表現であると理解できた。また、学習した単語を実生活で聞き分け、自らも使えるようになった体験は、非常に貴重だった。

授業で様々な単語やイディオムを学習したが、単なる習得ではなく、文化的・歴史的背景を踏まえて理解することができ、より楽しく学習することができた。

（３）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。（400 字程度）

授業を受ける前は、毎日クラスの前で教師と英語で会話をすることに対して緊張を感じており、発言することに抵抗があった。しかし、授業を通して、完璧な英語でなくても自分の伝えたいことは伝わるということを実感するようになった。その中で、間違いを恐れるよりも、まずは発言することが重要であるという意識へと変化していった。また、教師が積極的に発言を促し、誤った用法に対しても丁寧にフィードバックを行ってくれたため、安心して自分の考えを伝えられるようになった。その結果、次第に英語で話すことへの抵抗感が薄れ、自分の考えを伝えることに対して前向きな姿勢を持てるようになった。さらに、クラスメイトとの会話を通して実際に意思疎通ができた経験は、自信の向上にもつながった。

以上のように、授業を受ける前と後では、英語に対する不安が軽減され、積極的にコミュニケーションを取ろうとする意識へと大きく変化した。

（４）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。（300 字程度）

今回の留学を通して、積極的に物事に取り組むことの重要性を学んだ。また、英語を上達させるためには、机に向かって学習するだけでなく、実際に英語を使う経験を重ねることが不可欠であると感じた。特に、自分が興味を持てる話題についてスピーキングを通してアウトプットすることで、楽しみながら主体的に学習を進めることができると実感した。さらに、間違いを恐れずに発言する姿勢を維持することが、継続的な成長につながると考えている。今後は、大学において英語で開講される授業を積極的に履修し、英語を使用する機会を自ら増やしていきたい。また、授業内外で英語を使う環境に身を置くことで、実践的な英語力の向上を目指すとともに、異文化理解をさらに深めていきたいと考えている。

YCU 春季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	**R.K**	**学部・学科**	**国際商学部国際商学科**
学 年	**2**	**派遣国**	**アイルランド**
派遣大学	**ダブリンシティユニバーシティ**		
プログラム名	**春季短期語学留学**		
期 間	**2026 年　2 月　7 日～　2026 年　3 月　10 日**		

（1）授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

ダブリンシティユニバーシティのカリキュラム内容としては初歩的でつまずいている人の多い文法を中心に、4 技法を満遍なく行っていく授業であった。具体的な内容としては月曜日と火曜日は文法とその文法を使ったコミュニケーション、水曜日はボキャブラリー、木曜日はリスニングとライティング、金曜日は総復習とテストといったカリキュラムであった。目新しいことはせず、基礎的なことを地道に行っていく授業であった。座学メインというよりかは軽く知識の部分を話し、そのあとはコミュニケーションをアクティビティを通じて、自分のものにしていくといった授業であった。先生も巻き込んでたくさん英語を使い、英語を使うことへのハードルを下げることを目的とした授業であった。課題も出たが、その日にやったことの復習がプリント 1 枚程度やってくるといった非常に簡単なものであった。それ以外にも、ユニークな課題であれば、映画を一本見てきてその内容を説明するといったものもあった。日本の教育の中ではなかなかやらせようとしない内容であるが、英語に興味を持ってもらうという強い糸を感じることができて、こちらにも納得感があり、楽しかった。この学習のおかげで英語を話すことへの抵抗感というものが大いに薄れたように感じる。まだつたない英語でも互いに理解しようとがんばりながら、ゲームや課題をこなすことができた。印象に残った授業で言えばゲームで白熱して大いに論争を繰り広げたことだ。英語で論争をすることは非常に難しくてすごく頭を使ったが、ネイティブの速い速度についていきつつ、考えることはいい勉強になった。毎週金曜に行われていたまとめテストも難易度はそうたいしたものではなく、しっかり毎週の勉強が染みついているのかを確認する程度のもので、あまり気負わず受けていた。テストの内容もボキャブラリーやグラマー、リーディング、リスニングを織り交ぜたものであった。校舎での学びは 9 時から 13 時までで前半の部と後半の部で分けられていた。日本の講義より少し長く、集中が続かない場面もあったが、ゲームが多かったので良かった。

（2）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業で得られたものとしては、知識の面では既知の文法を英語で学んだので目新しかったものはなかったが、ネイティブの方が英語を話すときどんな頭の使い方をしているかがなんとなくわかり、時制の考え方が一段とブラッシュアップされた感覚になった。少し英語を話すときの頭の使い方が変化したように感じる。一番成長した部分は英語を話すことへの抵抗感が少なくなったことだ。アイルランドのことなんて右も左もわからないので聞くしかないのでいろんなタイミングでためらうことなく聞いた。授業内でも黙っていても何も始まらないので積極的に英語を使い、わからないことを聞いたり、自分の意見を述べたりした。授業内では失敗したり文法的に間違ったり、単語が出てこなかったりしても周りの人や先生が訂正してくれるので安心して英語を話すことのできる環境であった。知識に関してはあまり大きく進歩したという感覚、実感は得ることができなかった。しかし、時制の感覚のブラッシュアップは非常に会話に役立った。

（3）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

人と話すことへの抵抗感が少なくなった。自分の英語力にはあまり自信がなく、最初の時期は話すことに抵抗感があり、積極的に話すことができなかったが、授業を重ねるにつれて慣れや安心感から徐々に話すことができるようになった。失敗してもいいと学べたことは非常に有意義なものであった。人間だれしも失敗は怖いものであると思うが、ダブリンシティユニバーシティのクラスでは発言を躊躇することが一番恥ずかしいことだと思わされた。積極的に発言し、主体的に参加していくことは大切なことであると実感した。私は観光客としてここに足を踏み入れたわけではなく、学習者として学びに来たのだという自覚を持ちながら、自分から積極的に学びに行く姿勢を、ダブリンシティユニバーシティのクラスを通じて獲得することができたと思う。

（4）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学を通じて、一番に感じたことはわからないこと、知らないことは説教的に聞きに行く姿勢が大切だということだ。日本ではない未知の環境は知らないことだらけで右も左もわからなかった。今の時代スマートフォンがあるが、スマートフォンで調べてもよくわからないことが無限に存在する。そんな時に近くにいた方に話しかけ、教えてもらうなど、自ら積極的に関わっていくことが大切だと感じた。案外聞いたら気前よく教えてくださる方が多く、非常にありがたかった。道に迷って、どのバスに乗ればよいかわからなくなっても、聞いたら教えていただいたし、非常に感謝している。わからないことは積極的に聞き、また自分自身も聞かれたら懇切丁寧に教えようと感じ、これを実践に移していこうと感じた。

YCU 春季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	**H.H**	**学部・学科**	**国際教養学部**
学 年	**1 年**	**派遣国**	**アイルランド**
派遣大学	**ダブリンシティーユニバーシティ**		
プログラム名	**春季短期語学研修**		
期 間	**2026 年　2 月　9 日～　2026 年　3 月　6 日**		

（1）授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

研修中、参加者は事前に受験したテストの結果をもとにクラス分けをされる。私は B2（中上級）クラスだった。
私のクラスでは、月曜日～木曜日にかけて文法・語彙・リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング・発音など、様々な要素を学んだ。一つのセクションにテーマ（環境保護など）があり、それに関係する語彙や文法を学ぶ。そのうえで、テーマに関して論じたリスニングやリーディングを行い、学んだ語彙や文法をアウトプットするという流れだった。
金曜日は演習として、学んだ内容をどの程度理解しているかを確かめるためにテストを受けた。文法・語彙・リーディングは 40 分、リスニング・発音は 20 分、ライティングは 15 分程度のテストだった。
課題は、文法と語彙を復習するための内容が多かった。プリントで出されることもあったが、多くはインターネット上のアプリやサイトを利用した。出された問題の自分の回答を確認し、自分の理解度に応じて復習を行うという内容だった。
常に先生の話を聞いて勉強するというわけではなく、先生が積極的に生徒に問いかけを行い、生徒自身が授業の主体となることが求められていた点が特徴的だった。また、理解度を深めるために、インターネット上の動画を視聴したり、ゲームをしたりするなど、楽しみながら知識を定着させる指導を行っていた。先生は Youtube 動画などのコンテンツを定期的に紹介し、英語のモチベーションを長期的に維持することができた。
印象に残っている授業は、フランス人留学生が参加していた回である。彼らは 1 週間のみの滞在だったため私たちより先に帰国したのだが、短期間でも積極的に学ぼうとする姿勢が印象的だった。分からない点があればすぐに教師に質問をし、自分が理解するまで対話を続ける姿勢や、自分の英語に自信をもって話す姿勢に刺激を受けた。フランスの文化や日本の文化を共有する時間を先生が設けてくれた時もあり、お互いの文化を知るきっかけにもなった。

（２）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

（1）の通り、私のクラスでは主に文法・語彙を中心として授業が進められ、テストの構成でも文法と語彙が大きく扱われていた。このため、特に文法と語彙における知識を多く得ることができた。
1 ヶ月間の中で学んだ文法としては、主に Subject question, object question, 時制（現在完了形、未来完了・進行形など)、形容詞の用法などがある。どの文法もすでに高校時代に習ったものではあったが、あやふやな状態なまま使っている部分もあった。そのため、それらの英文法の知識を再復習することができた。
また、英語を使いながら英文法を学ぶことで、日本語では説明しづらいニュアンスや、「なぜこの文法を使うのか」といった本質的な部分まで落とし込んで理解することができたと感じる。さらに、授業後すぐに習った内容を活用できる環境があったため、ホストファミリーとの会話の中で学んだ文法を使い、自分のスピーキング力を伸ばすことにも繋がったと感じる。
語彙においても、高校の授業では習うことがなかった実践的な単語を新たに知ることができた。文法と同じく、学んだ後すぐに実生活で新しく習った単語を使用することができたため、単語の定着度が高くなったと感じる。

（３）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

プログラムを通し、特に自身のスピーキング力・リスニング力が大きく向上したと感じる。前述の通り、完全に英語で授業が行われるため、ある程度のリスニング力がないと内容を理解することができない。プログラム開始時は、常に担当教師の指示に集中しないと何をすれば良いのか・何を話しているのかが分からなくなってしまっていた。しかし、必死に食らいつこうと毎日英語を聞いていくことで、最終日には意識しなくても自然と英語が聞き取れるようになった。また、ためらわず毎回の授業で必ず質問をしたり、先生が全体に問いかけをした際に自分の意見を積極的に述べたりことで、スピーキングのレベルが上昇したと感じる。
このような授業での経験を経て、学校外でも積極的に英語を用いてネイティブとの会話を楽しむことができるようになった。ホストファミリーやネイティブから英語を褒められたり、知らない人から話しかけられても柔軟に対応したりすることができるようになった。

（４）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

この研修を通して現段階の自分の英語力を認識し、次に自分が目指す英語力の目標を持つことができた。例えば、現在私はＢ2 レベルだが、1 段階上のＣ1 レベルの語彙・リスニング・スピーキング・読解・筆記力を持ちたいと考えるようになった。
Ｃ1 レベルを目指すため、日常生活の中で英語を勉強する時間を取り、語彙や文法、リスニングなど、複数の要素を学ぶ。この際、動画など比較的学びやすい媒体も使用し、モチベーションを維持する。2 年前期では APE を履修して専門的な英語を学びたい。何よりも、英語はコミュニケーションの手段ということを忘れず、様々な機会を活かして、まだ自分が出会ったことのない人たちと積極的に英語を通して繋がっていきたい。

YCU 春季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	**K.I**	**学部・学科**	**国際商・国際商**
学 年	**2**	**派遣国**	**アイルランド**
派遣大学	**ダブリンシティ大学**		
プログラム名	**春季短期語学研修**		
期 間	**2026 年　2 月　8　日～　2026 年　3 月　10　日**		

（1）授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

授業は、外国人講師 1 人に生徒 13 人という構造で行われた。クラスによって演習内容が異なるが、僕のクラスは教科書・プリントを主に用いて進行していくというスタイルであった。

具体的には、その日に習う文法について最初に教科書を用いて説明、その後、その文法を用いたペアワーク英会話、リーディング、リスニングを行うというものが基本であった。

先生は、僕たちが英語ができないことを十分に理解していてくれたため、英語に対しての怖さは軽減されたと思える。また、解答を間違えた時も直接間違いと言うのではなく、間接的に優しく間違いを指摘してくれるので、その点も英語に対しての怖さ軽減につながったと思う。

課題に関しては、毎日課せられて、その日習った文法に関しての問題が中心だった。難易度は難しいものではないので、課題がキツイということはなかった。

演習に関しては、毎週金曜日にテストが課せられた。内容はその週に習った事項を総復習するといったものだった。文法・リスニング・リーディング・英作文を含んでいて、ボリュームはあるが、普段からの授業を受けていれば問題なく解けるという印象だった。また、与えられたトピックについて 2 分ほどで話すスピーキングテストもあったので、英語力向上につながったと思う。

印象に残った授業は、男女の趣味や価値観の違いについて英語でディスカッションするという回が印象に残った。先生がアイルランド人の価値観や生活スタイルを分かりやすく面白く紹介してくれたので、

しかし、生徒に占める日本人の割合がどこのクラスも 9 割を超えているので、ｐｅや ape の延長線上のような気はした。困ったときには日本語が普通に使えるので、完全に海外にいるという実感は授業では感じられなかった。

（2）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通して、語学力の向上だけでなく、多様な考え方や価値観に触れることができた。特に、ディスカッションやグループワークでは、自分の意見を論理的に伝える力や、相手の意見を理解し尊重する姿勢の重要性を学んだ。また、実践的な英語表現や日常会話だけでなく、アカデミックな内容を英語で理解する力も身についたと感じている。さらに、異文化の中で学ぶことで、柔軟に物事を考える力や適応力も養われた。これらの経験は、今後の学業や将来において大きな財産になると考えている。

（3）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、英語での授業についていけるか不安が大きく、自分の意見をうまく伝えられるか心配だった。また、間違えることを恐れて発言をためらってしまうことも多かった。しかし、実際に授業を受けてみると、先生やクラスメイトがとても温かく、間違いを気にせず発言できる雰囲気があることに気づいた。そのおかげで、少しずつ自分から発言できるようになり、英語でコミュニケーションを取ることへの抵抗感も薄れていった。1 か月の留学を通して、英語力だけでなく、新しい環境でも挑戦することへの自信がついたと感じている。

（4）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で得た経験を、今後の学業に積極的に生かしていきたい。特に、英語でのコミュニケーションに対する抵抗が減ったことを強みに、授業内外で自分から発言する姿勢を大切にしていく。また、予習や復習をこれまで以上に意識し、授業内容を深く理解できるよう努めたい。さらに、英語力の向上を継続するために、日常的に英語に触れる機会を増やし、読む・書く・聞く・話すの四技能をバランスよく伸ばしていく。今回の経験を一時的なものにせず、継続的な努力につなげ、自分の将来の目標達成に結び付けていきたい。